



医療系URAに求められる役割と medU-netの取組み

医学系大学産学連携ネットワーク協議会
国立大学法人 東京医科歯科大学 (TMDU)
飯田 香緒里

医学系産学連携ネットワーク協議会 = medU-netとは

- 医療系産学連携の機能強化・人材育成により、医療イノベーションの加速を目指す
- 各種リソースの共有、産学官による対話と連携を核にしたネットワーク活動
- 2010年6月発足(MEXT自立化促進事業)、2013年度から自立的活動開始

情報（発信/収集）の共有

- ◎ medU-net通信の掲載・発信
2014年度： 通/年
- ◎ 国際技術展示会へ合同出展
2014年度：11機関での出展

経験の共有：課題の解決

- ◎ ワーキング活動
知財管理WG、事業推進WG
- ◎ 事例検討会
実務者の抱える課題を共有する場

人材・教育の場の共有

- ◎ セミナー等の開催
 - * 薬事 (RS) セミナー
 - * バイオ入門講座
 - * ライセンス契約セミナー

会員構成

医学系産学連携の
産・学・官 関係者
(実務者・研究者)

知の集約：政策提言活動

- ◎ 産学官の対話と連携
文・経・厚省等との意見交換
- ◎ パブコメ発信
医学系産学連携の意見を集約

医学系産学連携ハブ機能



医療系研究の特殊性と支援体制の課題

イノベーション創出

- 研究コストと期間
- ガバナンス

研究成果の保護

- 一製品一特許
- 特許の完成度
- 出願戦略（外国）

成果の活用

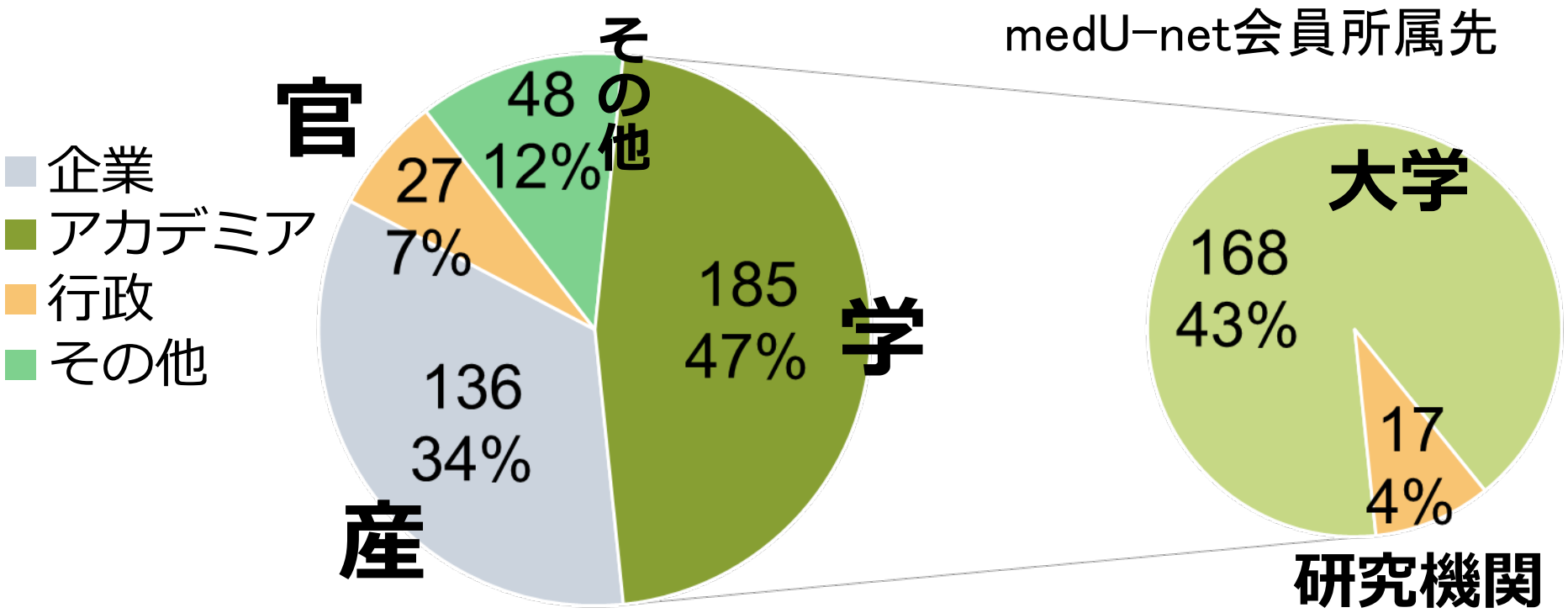
- ライセンスの難しさ
- TR・臨床研究
- 薬事戦略

medU-net設立背景：医療系研究の特徴と支援体制の課題

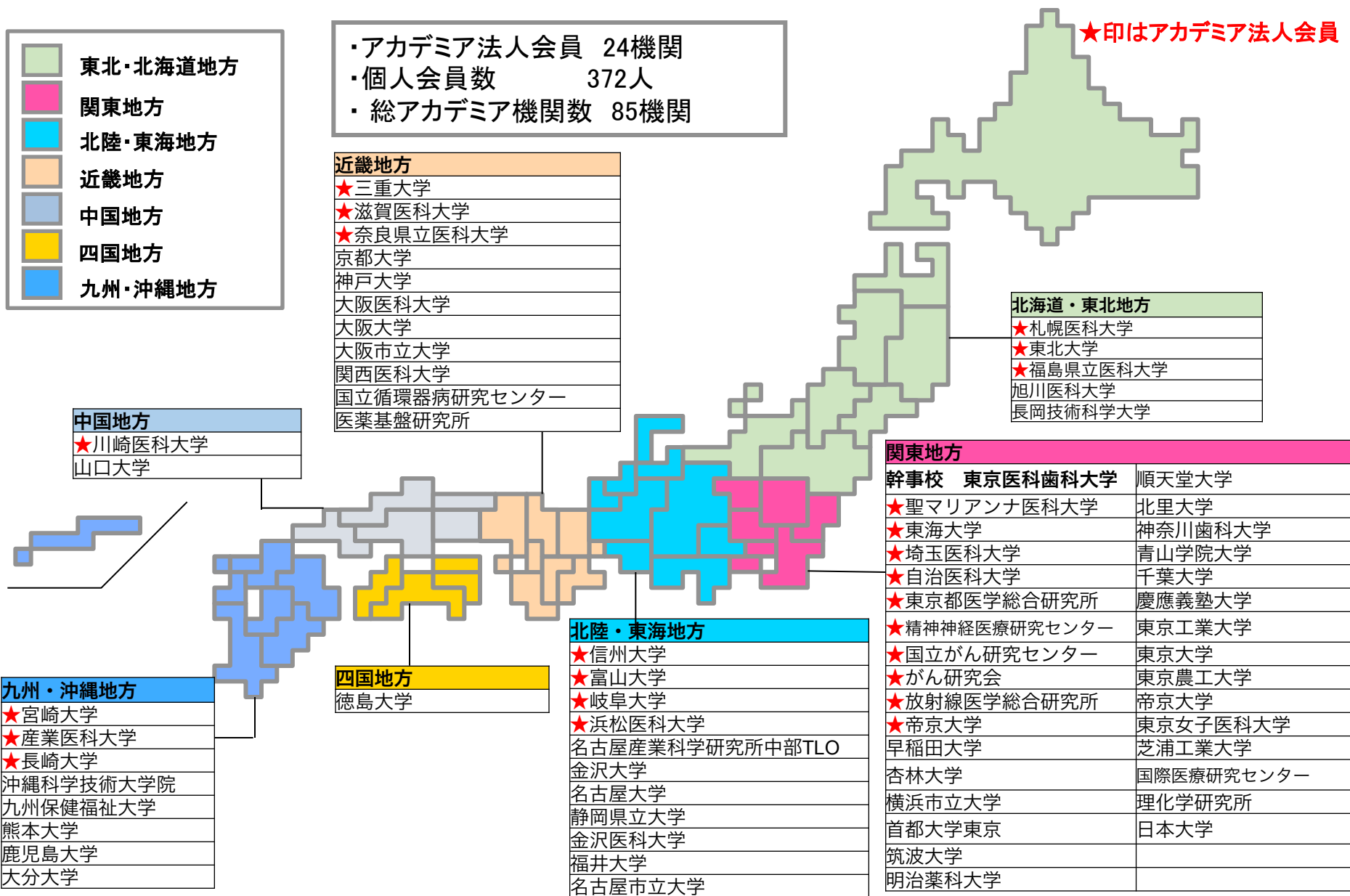
- ライフサイエンス分野のプロジェクトは大型傾向
- 研究開始時点から、産業界との結びつきが求められる傾向
- 医療イノベーション創出の過程には、臨床現場のニーズや臨床研究力が大きな役割を果たす＝産学連携の必要性が特に高い。
- 医学系産学連携専門人材を配置できる組織は多くない？！
- 産学連携支援組織がない大学等にも優れた研究成果は沢山ある？！

medU-net会員総数：404(平成28年2月1日時点)

	産	学	官	その他	計
個人会員数	136人	161人	27人	48人	372人
所属機関数	103機関	93機関	12機関	41機関	249機関
法人会員	8機関	24機関	0機関	0機関	32機関



medU-netアカデミア会員分布図



医療系URAワーキングの設立の背景

医学研究の特殊性

基礎研究から実用化までにかかる時間の長さ

医学研究にかかるコストの大きさ

極めて高い安全性と研究倫理が要求される

産学連携に基づく医学研究が期待される（政策）

医学研究支援内容

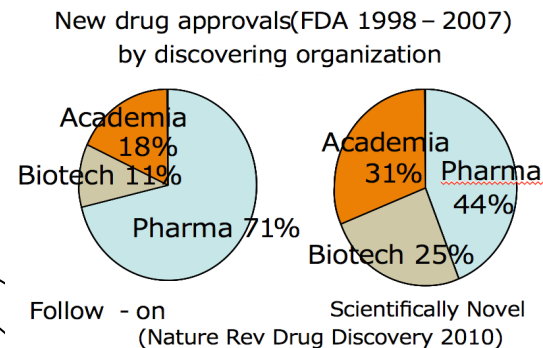
産学連携・知財支援に医療特有の知識が要求

URA業務と産学連携支援業務の連携必須・線引き困難

医学研究支援人材

medUへ医療系大学のURAの参加が増加

URAと産学連携担当者が一体化



2013.6 日本再興戦略
健康・医療戦略
2014.5 健康・医療戦略推進法成立
2015.4 日本医療研究開発機構
(AMED)

医療系URAワーキング

◎活動概要：

医療分野の研究は、研究規模・臨床研究の必要性及びそれに伴い要求される極めて高い安全性と研究倫理等、他の分野と比較して独自性が強く、また産学連携の形態も特殊であることから、研究支援を行う医療系URAもまた独特の知識・経験・スキルが求められる。

そこで、医学系URA制度のあり方や今後の展望について忌憚なく議論できる機会としてワーキングを設置。

有識者や産官学ステークホルダーとの意見交換の場を設定するなど、多くの機関が連携すればこそ可能な活動を展開予定。

◎活動目標：医療系URAの日本版モデルの確立

◎メンバー：

順天堂大学・長崎大学・慶応義塾大学・琉球大学・名古屋大学・東北大学
宮崎大学・横浜市立大学・滋賀医科大学・聖マリアンナ大学・東京医科歯科大学

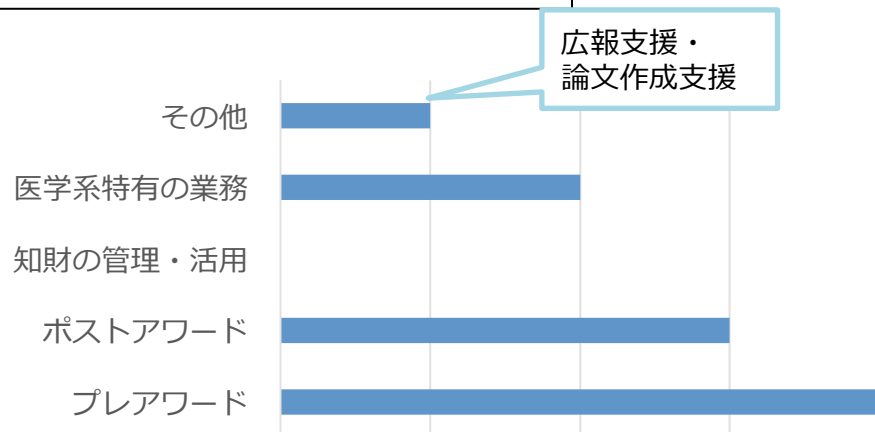
◎設立時期：2015年3月2日～

これまでの主な議論

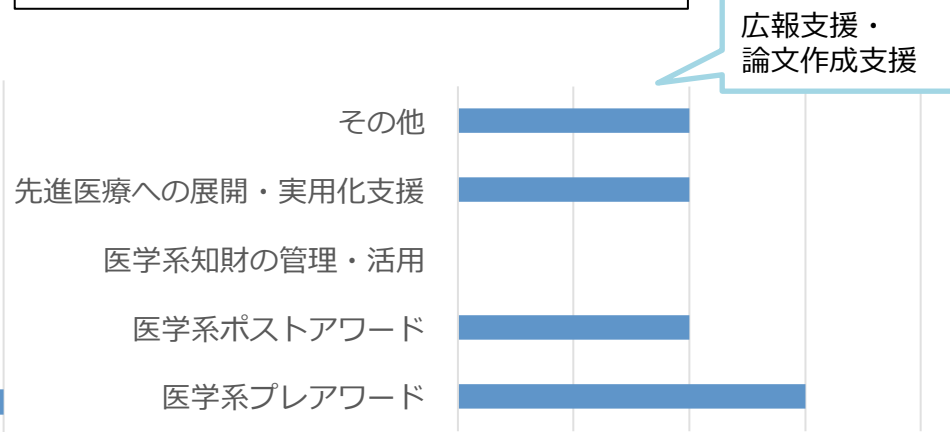
- 論点1 医療系URAの機能・役割
- 論点2 医療系URAに最適な人物像
- 論点3 医療系URAのポジション
- 論点4 医療系URAのスキル強化

論点 1 医療系URAの機能・役割

所属機関のURA業務内容



所属機関の医学系URAの役割



* 医療分野の研究は、他の分野と異なる独特な研究スタイル

プレアワード・研究戦略立案においても、他の分野と異なるURA業務

* 医師主導臨床研究周辺のサポート

適正な臨床研究（研究倫理）・効率化（薬事含めた研究戦略）等

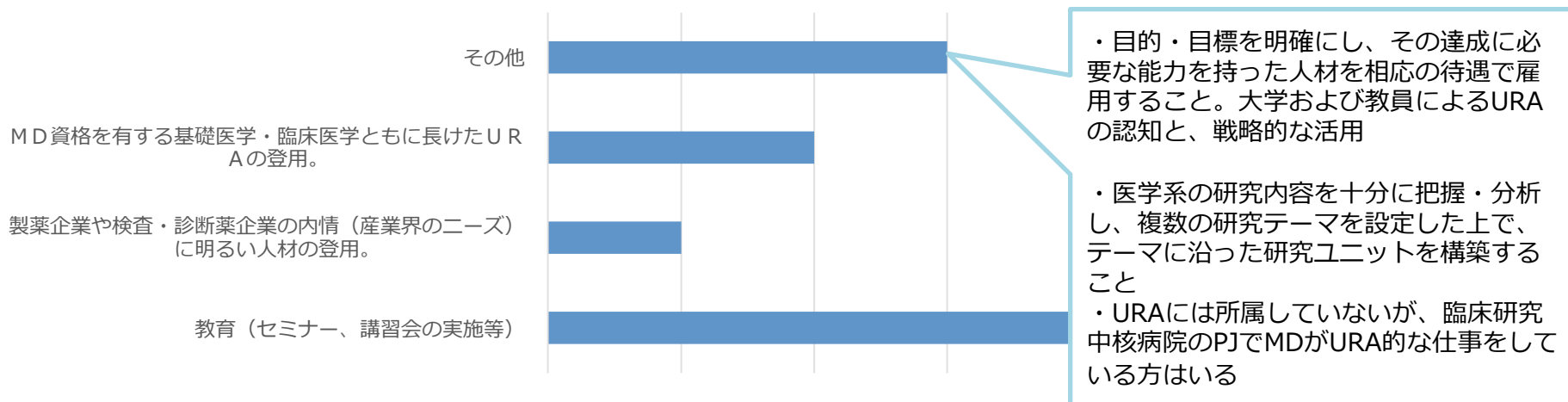
* 大型プロジェクト（大型外部資金）の運営・推進

研究遂行支援（ポストアワード）の必要性が高い分野

⇒機関毎にURAに関する役割等は異なる。

⇒他の分野のURAとは異なるURA業務が求められている。

論点 2 医療系URAに最適な人材像



- * 即戦力となりうる人材の獲得のみならず、育成も重要
- * 臨床研究に対する支援ニーズから、臨床研究に明るい医師を積極的に登用する必要性大
- * 産学連携の重要性・緊密性から、産業ニーズに深い理解を有する人材の登用が求められる（産学連携部門との密接な連携により対応する方法も）

⇒高度専門人材の獲得と人材育成の両輪（多様な業務へ対応）

論点 3 医療系URAのスキル強化

- * URA人材の育成、特に医療系URAスキル向上に役立つ会合が少ない。
- * 必要な情報が散逸している（学会・行政のHP等）

⇒医療系URA教育プログラム・ネットワーキングが求められる

論点 4 医療系URAのポジション

- * 臨床研究・薬事対応等の責任の思い仕事を任されるが、正規職員ではないため正式な権限がない。
- * 医学系URAでは、他の分野より中長期の研究支援が求められるが、URAは事実上単年度契約であり、高年齢者も多い現状
- * 学内でURAの認知度が低い

⇒医療系URA業務は、中長期プロジェクトに対応するため、安定した雇用の確保により、堅実な対応が可能に
⇒重責な業務には、一定の権限・ポジションが必要

今後のワーキングの展望

医療系URAの日本版モデルの確立

- ◎ 医療系URAの役割・機能に関するコンセンサス形成
- ◎ 医療系URAの育成・確保のための環境作り

- 医療系URAの現状把握（意見交換の場作り）
- 医療系URAに必要な情報の集約・共有
- 医療系URAの業務・体制等に関する課題の抽出と解決に向けた検討

ご清聴ありがとうございました。

iida.tlo@tmd.ac.jp

<http://www.tmd.ac.jp/tlo/>

<http://www.medu-net.jp> <<http://www.medu-net.jp/>>